

3.3 地象の状況

(1) 地 形

佐久市の中心部は、佐久盆地に属し、標高は700m程度である。また、市の東部には、佐久高原と呼ばれる山地が存在し、妙義荒船佐久高原国定公園に指定されて、物見山・荒船山など標高1,000m～1,400m程度の山々が含まれている。

計画地及びその周辺における地形分類は、図2.3-6に示すとおりである。

計画地は佐久市の北部に位置する東部山地の南向斜面上に位置し、比較的なだらかな傾斜となっている。計画地の南側には、香坂川が西流しており、計画地の南側から南西側にかけて段丘地形を形成している。標高は香坂川沿いの約850mから山地尾根部の約1,250mの間にある。

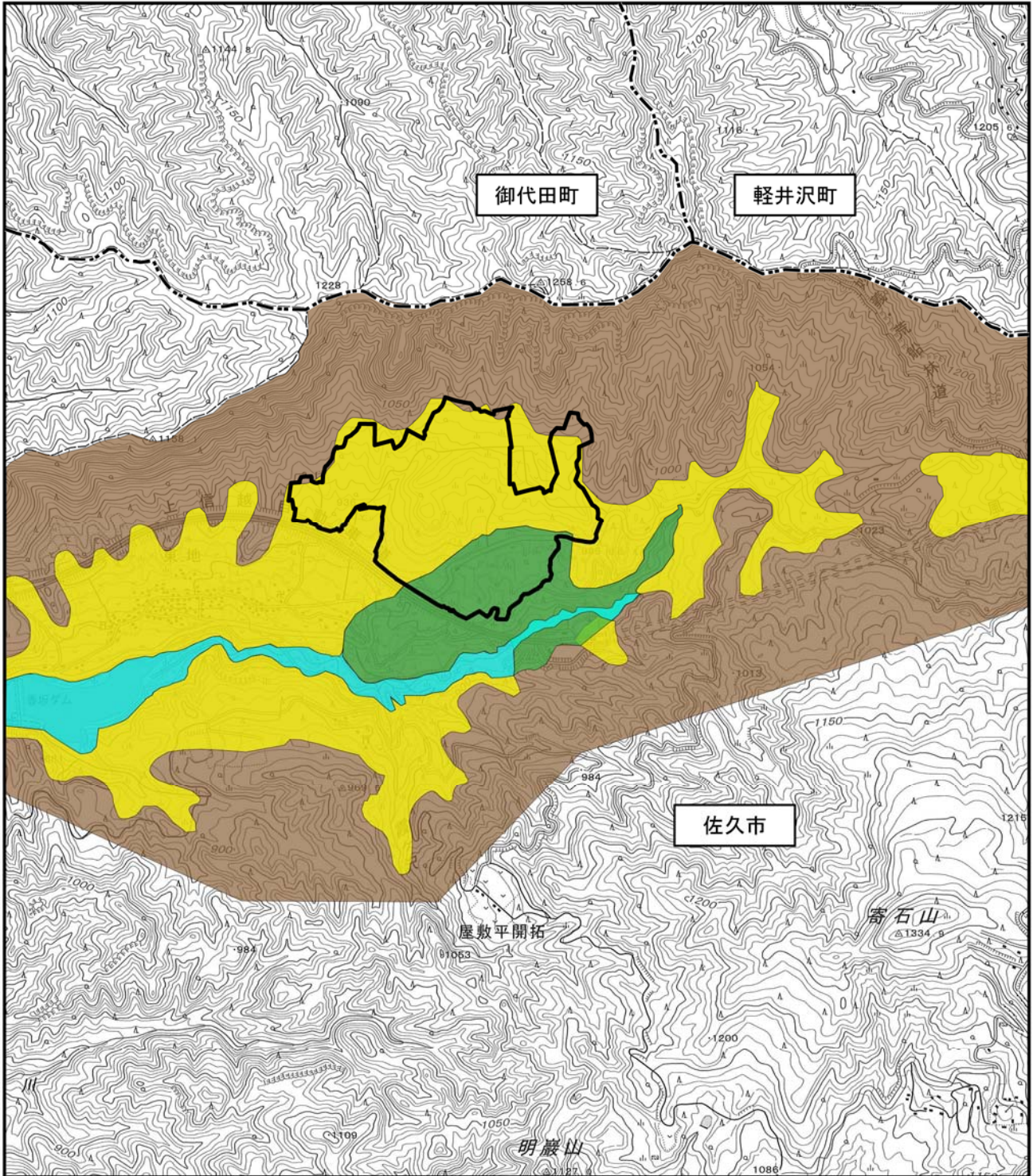
既存文献によると、計画地及びその周辺の地形は、山地面、山麓面、侵食段丘面及び沖積低地面の4種に区分される。

山地面は急傾斜を成しており、計画地内の北端の一部に分布している。この地形面を形成するのは上部中新統の香坂層と鮮新統の志賀溶結凝灰岩である。特に志賀溶結凝灰岩は、山地尾根部の急崖地形を形成し、切り立った崖や塔状の岩塊がみられる。これらの露岩は比較的硬く、岩の節理は水平方向であるため、岩塊が剥離落下することは遠い過去の地質時代にあったことは確かであるが、現在及び近い将来にはほとんど発生することはないと考えられる。計画地周辺においても、差別侵食による奇岩の露頭を呈している。

山麓面は緩傾斜を成しており、計画地内の概ね北半部に分布している。山麓面には上部中新統の香坂層が含まれている。この層を構成するのは軟岩が多く、風化侵食されやすいために緩斜面を形成している。

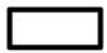


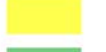
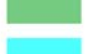

侵食段丘面は、山地では緩斜面を形成し、香坂川沿いでは急崖地形を呈している段丘地形であり、計画地内では概ね南半部に分布している。段丘面上には岩の露出がみられることから、これらの段丘は侵食段丘とみられる。

沖積低地面は、河川沿いに平坦面を形成している谷底平野のことであり、香坂川沿いに分布している。計画地は香坂川の上流部に位置しており、沖積低地面は含まれていない。



資料：「佐久高原レクリエーション施設造成事業自然環境影響調査報告書」（平成5年4月、交米興産株式会社）

凡例

- | | | | |
|---|------|---|-------|
|  | 計画地 |  | 山地面 |
|  | 市・町界 |  | 山麓面 |
| | |  | 浸食段丘 |
| | |  | 沖積低地面 |

注) この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図(御代田)を使用したものである。

図 2.3-6 計画地及びその周辺の地形分類図

